

行歯会だより(第10号)

2006年3月(毎月発行)

(行歯会 = 全国行政歯科技術職連絡会)

全国の行歯会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか? 花粉症の方にはつらい季節かもしれませんが、春はもうすぐそこまでやってきました。年度末の忙しい時期ですが、このコーナーでほっと一息、旅の気分を味わっていただけたらいいと思います。今回で3回目となりました『地域紹介 わたしの街自慢!』地元の名産品や観光スポットから、地域の特徴・歯科事業の紹介などを、全国の行歯会会員でリレー連載していきます。今月は長崎県からのバトンタッチで、兵庫県の足立先生です。

「自然と文化の街 兵庫県の魅力」

兵庫県健康生活部健康局健康増進課

足立 ちあき

行歯会の皆さん、こんにちは。兵庫県健康生活部健康局健康増進課の足立です。行歯会からの迅速な情報、活発な意見交換にいつも助けられています。この機会をお借りしてお礼申し上げます。

さて、2月のある日、静岡県の方から、原稿依頼のお電話が。あの癒し系のお声と話し方、「観光案内7割、事業の説明3割で……」というお言葉に、つい気軽に引き受けてしまいました。どうぞお付き合いください。

兵庫県は面積が広く、地域によって自然や文化、産業などが随分異なるため、県内を10県民局に区分しています。いくつかの県民局のお勧めスポットをご紹介します。

あの阪神・淡路大震災から11年が経過した本年2月、兵庫の新たな空の玄関口として神戸空港が開港しました。全国7都市と結ばれ、三ノ宮からわずか16分。都心と直結する利便性の高い神戸空港は「元気な兵庫」の象徴です。また、豊かな自然や歴史文化、海・山の多彩な食や華やかなファッションなど、神戸ならではの魅力を全国に発信しています。ぜひ一度、ご利用ください。

次に、身近な所で、県庁舎の南側に、緑の木立の間から、フランス・ルネッサンス様式の重厚な偉容をのぞかせる兵庫県公館があります。明治35年に県本庁舎として建設されましたが、現在は、迎賓館・資料館として利用されており、土曜日には迎賓館が一般開放されています。お正月明けからは、珍しい冬咲きチューリップ(淡路産)が県民の目を楽しませており、私のお気に入りです。



阪神北の宝塚市には、タカラヅカファンの生地、宝塚大劇場と、日本マンガ界の巨匠、手塚治虫ワールドが体感できる手塚治虫記念館があり、直筆原稿の展示や、作品の全書閲覧ができます。簡易アニメーションの制作体験もできて、子どもから大人まで楽しめます。

中播磨では、その優雅な姿から「白鷺城」とよばれる姫路城がお勧めです。国宝、ユネスコの世界文化遺産に指定されている日本を代表する城郭建築で、内部、外観ともに構造は築城時の原型を残しています。また、城へと続く大手前通りはその美しい景観から日本の道百選に指定されています。



また、県北部の但馬では、かつて日本全国の川辺や田んぼで見られたコウノトリ。自然環境の破壊により昭和46年に野生最後の一羽が姿を消してから30年余りが経過した後、「コウノトリをもう一度大空へ戻そう」という壮大なプロジェクトが地域ぐるみで展開され、昨年9月、皆の夢と希望をのせて、5羽のコウノトリがケージから放たれ、今も元気に大空を舞っています。

ここ数年、兵庫県では大きな事件・事故等が数多く起こり、気持ちが暗くなる日々が続いた時もありましたが、今年秋には「のじぎく兵庫国体」と全国障害者スポーツ大会「のじぎく兵庫大会」が開催されます。ぜひ、全国から多くの皆様に兵庫を訪れていただき、県内各地の自然・文化を楽しんでいただきたいと思います。

最後に、本県の事業を一つ紹介させていただきます。平成12年度から実施してきました「摂食嚥下障害対策事業」です。「寝たきり歯科」を推進する中で、歯科関係者と他職種との連携強化の必要性を痛感し、この事業を立案しました。事業開始こそ、普及啓発を目的にシンポジウム、研修会等を開催しましたが、行政は、関係団体・機関の自主活動を促

進し、連携の橋渡しをするという考え方で、協議会を中心に、関係団体等の取り組み強化、情報の共有化等に努めてきました。本年度、病院、介護老人保健施設等を対象に実態調査を実施しましたが、13年度調査と比べ、取り組みは充実されており、検査、訓練等での受け入れが可能で、可能な病院として公表する施設も、前回の70から98か所に増加する等、関係団体・機関等による取り組みは着実に充実しています。この事業は今年度で終了しますが、協議会機能は兵庫県プライマリ・ケア協議会が引き継いでくださることになっています。これまでの取り組みが、改正介護保険法における事業等をはじめとした各種の取り組みに少しでも役立つことを願うとともに、今後とも、行政担当者として、関係団体・機関等の取り組みを支援していきたいと思っています。

行働会の皆様には、引き続き、様々な形でご指導いただきますようお願いいたします。

理事のひとりごと（その9） ～南伊豆日帰りの旅～

早朝の水戸、氷点下5度、成人式をまぢかに控え、水戸駅に向かう。山手線に乗り継ぎ東京駅へ。昼食用の弁当を買う。未だ東京駅で上手い弁当に出会ったことがない。八重洲の大丸地下で購入したいところだが、オープンまで時間がある。

スーパー踊り子号に乗車。指定席は10名ほどの女性の集団の中にぼつんと一人。形見が狭い。わいわいがやがや、お菓子を食べながら大声で談笑している。話の内容から、保育士の研修旅行らしい。

小田原駅に到着。一面の雪景色である。熱海に到着、騒がしい集団

茨城県保健福祉部保健予防課

鳥山 佳則



が下車してほっとして、出発するも、徐行運転となる。正午を回り、弁当を広げる。食は進まず。予定より1時間遅れでようやく下田駅に到着。

さき程までの雪は微塵もなく、1月とはいえ、南伊豆の温暖な天候。訪問先に電話を入れる。タクシーに乗り、目的地へ。お父さんと妹さんから丁寧なご挨拶を受ける。霊前にて合掌。

帰路、伊豆駅の駅員の対応に憤りを感じながらも、駆け足で乗車し、水戸へと向かう。

白井和広さんのご冥福を心からお祈りいたします。

平成17年度特定研修臨床研修指導歯科養成コース(保健所)を終えて

三重県南勢志摩県民局保健福祉部 石濱 信之



皆様はじめまして、私三重県南勢志摩県民局保健福祉部(伊勢保健所)の石濱と申します。今回、埼玉県和光市国立保健医療科学院で2月23、24日の二日間にわたり行われた、平成17年度特定研修臨床研修指導歯科養成コース(保健所)を受講しましたのでレポートさせていただきます。

参加した受講者は北海道から九州までの都道府県型保健所歯科医師、政令指定都市、中核市、特別区保健所歯科医師あわせて25名でした。

開始にあたっての受講者自己紹介では、すでに歯科医師の受け入れからプログラムまで決まりそうところから、現在のところ受け入れ予定がないところまで保健所によって状況はまちまちでした。

研修は新たな歯科医師臨床研修制度総論の講義から入り、それ以降は 1)公衆衛生全般コース(保健所業務全般)、2)地域歯科保健医療全般コース(保健所対人サービス)、3)地域歯科保健医療習熟コース(保健所歯科保健サービス)の3つのグループに分かれグループ討論・発表の形式で進みました。討論・発表のテーマは、1)研修に関するニーズとダイヤモンド、2)研修目標、3)研修方略、4)研修評価についての4つでした。二日間でテーマごとに各グループからの発表を組み込んであったので、他のグループの中身も共有しながら進んでいきました。

今回の目的は、臨床研修の質を高めるために研修プログラムを作成推進する能力および基礎的な臨床能力を備えた研修歯科医を養成する指導力を身につける でした。公衆衛生について卒後に体験でき

るのは保健所における歯科医師臨床研修であり、受講者側の臨床研修歯科医受け入れ期間は、1日から数日とさまざまです。また、現在受け入れ予定がなくても、次年度にはあるいは年度途中で受け入れることになる可能性はあります。最終的に形作った研修プログラムをそのまま持ち帰るのではなく、評価まで含んだプログラムを作る一連のプロセスを経験できたことがこの研修の貴重なところだったと思います。

本研修終了にあたっての受講者からの感想では、今回の研修での経験を自分の保健所での臨床研修プログラムに活かしたいという発言が多く聞かれました。また、保健所での歯科医師臨床研修では公衆衛生マインドを伝えたいという熱い意見も多くありました。

詳しい記録は後日何らかの形で皆様ご覧になることと思います。以上、簡単ですがレポートを終わります。



注1: 歯科医師に対する新しい臨床研修制度は、平成18年4月から開始されます。医師の臨床研修制度は平成16年に開始されており、昨年度は各保健所で2年目の研修医に対して「地域保健・医療」に関する研修が行われています。

注2: 今回、石濱先生に報告していただいた国立保健医療科学院の研修は次年度も行われる予定です。

お知らせ

平成18年度 行事日程

・公衆衛生学会(H18.10.25-27)

<http://www.jsph.jp/>

・口腔衛生学会(H18.10.6-8)

<http://pcp.kyorin.ne.jp/dh55/>

・国立保健医療科学院「歯科衛生士研修」(H19.1.15~1.26)

<http://www.niph.go.jp/entrance/h18/418sika.html>

質問コーナー！

“行歯会だより”では、日頃の疑問をメールリストで質問してみたいけれども気が引けるなあ…とされている方のために、質問コーナーを設けています。現在、5件の質問が寄せられています。質問には、アドバイザー()の諸先生方にもご協力いただき、順次回答をまとめ行歯会だよりの中に掲載する形でお答えしていきます。今回はその第一弾として、長崎大学の川崎先生にご協力いただき記事としてまとめました。

質問

幼児の、口腔習癖について質問です。1歳6ヶ月児や3歳児健診で、指しゃぶりやおしゃぶりについては、児の口腔内状況や児をとりまく育児環境などに考慮しアドバイスをしているところですが、以前、口唇吸いや舌癖については長期に習癖として残りやすく、また心理的に何か問題がある場合も多いと小児歯科の先生に伺ったことがあります。どのような背景がありますでしょうか？また口唇吸い、舌癖の子どもと親に対するアドバイスで何か具体的にありましたら、教えてください。

回答

アドバイザー：長崎大学医学部・歯学部附属病院 川崎浩二

【原因】

- ・弄舌癖の原因については、舌や口腔周囲筋の発育不良、舌小帯付着異常、吸指癖、乳歯早期脱落、口呼吸、耳鼻咽喉的疾患、顎骨形態の遺伝等が考えられているが、心理的問題が関係しているかどうかは不明
- ・弄唇癖は「指しゃぶりから移行する」という説や「吸啜反射説」があり、口唇を吸う行為は遊びや心の不安を制止するという働きがあるとも言われている。

【影響】

- ・弄舌癖は、開咬、上顎前突等の不正咬合を誘発するだけでなく、異常嚥下癖(開咬を伴うと舌を突出させて口腔内を陰圧にして飲み込む)を併発する。発音にも問題
- ・弄唇癖は、口唇閉鎖ができにくくなり、口呼吸を誘発、上顎前突、過蓋咬合。

【治療法】

弄舌癖、弄唇癖について、コクラン・ライブラリーでキーワード「tongue habit」または「lip habit」で検索すると臼歯クロスバイトの治療に関するシステムティックレビューが1件ヒットするのみのみで、弄舌癖、弄唇癖の原因や治療法に関する記述はない。

一般的には以下の治療が行われている(指しゃぶりと同様、通常4歳までは経過観察)。

- ・弄舌癖に対する治療法：筋機能療法(MFT)、口唇閉鎖指導、鼻呼吸指導、パタカラ(販売：モリタ)やリットレメーター(発売：日本歯科商社)による口輪筋の訓練、矯正治療
- ・弄唇癖に対する治療法：上顎前突の原因なることを患者に説明、オーラルスクリーン(リップバンパー、バイトプレート等)

【参考になる日本語文献】

- ・子どもの口腔習癖と不正咬合、日本歯科医師会雑誌 Vol. 56, No.5, 2003。
口腔習癖全般について原因、影響、治療法等がよくまとまっている。
<http://sikai-web.com/kodomono-koukuushuuhekito-fuseikougou.htm>
- ・河合 聡、舌癖に対する取り組み、歯界展望 Vol. 103, No.4, 690-699, 2004.
- ・佐々木洋、総説 小児の口腔機能の発達と口腔習癖、小児科診療 9号(3), 1291-1299, 1999.

今後もMLへの投稿はもちろんのこと、素朴な疑問や困ったことがあったら、ぜひこのコーナーをご活用ください。

2005年10月、行歯会だよりの臨時増刊号としてアドバイザー紹介特集号を発行しております。ご覧ください。

「質問コーナー」のご利用手順は次に示すとおりです。

1. 「質問の内容」と「氏名(所属も明記)」を記載して、下記の「質問受け付け専用アドレス」宛に、メールを送ってください。 gyoushi_kai_q@yahoo.co.jp
2. その後、質問をアドバイザー等に回答していただくように手配します。(質問者の名前は出しません。)
3. 回答ができましたら、「行歯会だより」の「質問コーナー」に Q&A で掲載します。

その際、質問者は「匿名」とします。また、質問者への個別の回答は行いません。

以上のような流れですので、回答までに時間を要することをあらかじめご了承ください。

どうぞお気軽に、ご質問ください。お待ちしております！！